

# 「健康教室」開催のお知らせ

**1月26日(土) 午後1時30分より**  
「終活について～ACP(アドバンス ケア プランニング) って何?～」

講師：院長 中谷 武嗣  
場所：牧病院 4階研修室

**2月23日(土) 午後1時30分より**  
糖尿病友の会『あさひ』

場所：牧病院 4階研修室

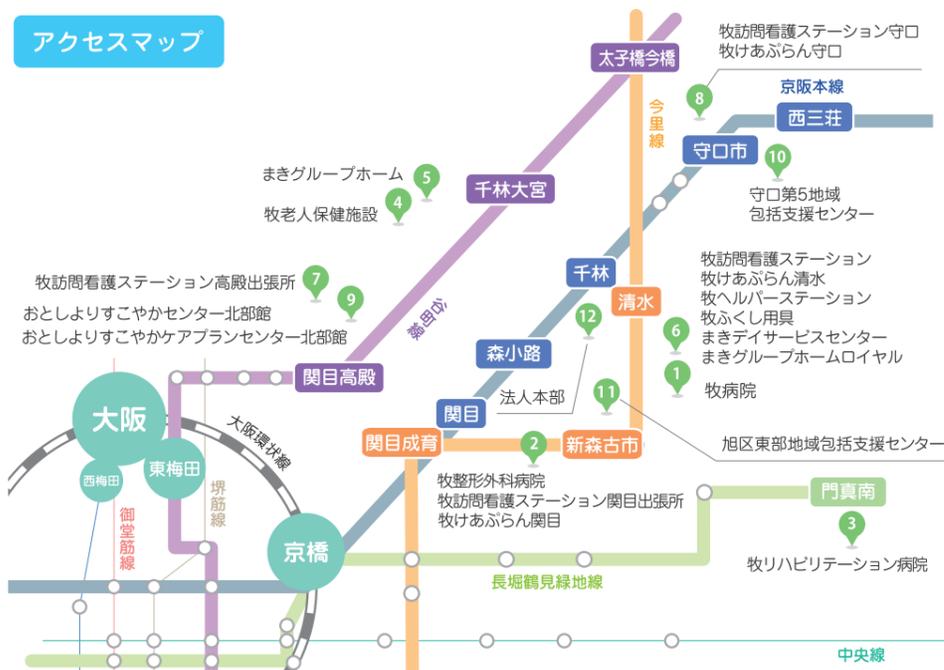
**3月23日(土) 午後1時30分より**  
「大腸がんのお話～大腸内視鏡検査について～」

講師：消化器内科部長 吉田 隆  
場所：牧病院 4階研修室



※いずれも事前の申し込みは必要ありません。ご参加お待ちしております。

## アクセスマップ



## 牧ヘルスケアグループ 医療法人清翠会

### 私たちの理念

# Medical for Happiness

一人ひとりの幸せな人生を支えるために

### 私たちの約束

#### 『Professional』

医療人としての誇りと謙虚さを持ち、日々研鑽を重ねます。

#### 『Heart』

あたたかい想いやりの心とともに、あなたに寄り添います。

#### 『Team』

和をもった信頼されるチームで、あなたを支えます。

# まき 冬 2019 Winter 倶楽部



トピックス

2019年 新春鼎談企画  
旭区の地域包括ケアシステムを考える

vol.116



- ◎ 牧リハビリテーション病院
  - ・「話す」「食べる」を回復させるスペシャリスト言語聴覚士!!
  - ～自慢のチームワークで支えます～
  - ・RUN伴+門真 開催 ～みんなでつなごう! 門真の輪!!～
- ◎ 牧病院
  - ・牧病院 画像診断センターです!
  - ～各科の診療を支える大切な役割を担っています～
- ◎ おとしよりすこやかセンター北部館
  - ～在宅復帰への体制づくり～
  - ～ご利用者の快適な生活をサポートします～
- ◎ ケアプランセンター
  - ～私たちのケアプランセンターはこんなところですよ～

国民の4人に1人が65歳以上の高齢者という時代になり、この状況に適した医療や介護、福祉の提供体制の整備、地域包括ケアシステムの構築が急務となっています。そこで旭区における地域包括ケアシステムはどうあるべきかについて、旭区医師会の守上賢策会長をお招きし、牧ヘルスケアグループ理事長 牧恭彦、またこの6月より旭区医師会の副会長でもある牧病院院長 中谷武嗣とそれぞれの立場で語り合っていました。



牧病院  
院長 中谷 武嗣

旭区医師会  
守上 賢策 会長

牧ヘルスケアグループ  
理事長 牧 恭彦

**(牧)** 旭区においても高齢化率が29.4%となり、全国平均(26.6%)を上回る状況ですが、地域包括ケアシステムについてどのように考えておられますか？

**(守上)** 旭区では38%程度の高齢化率になっているような地域もあり、非常に重要な課題と感じています。地域包括ケアシステムの考え方では、住民が最期まで住み慣れた自宅や地域で過ごせるよう、そのために必要な体制を整えていくことが必要とされています。旭区においても医療や介護等の多職種が密に連携を取り合える体制作りを進めてきています。

開業医の立場としては、「自身の診療所から半径300m～500m内の住民を支えることが自らの責任だ」という意識を持って私自身は診療しており、かかりつけ医としてほかの先生方にも同じように意識してもらえればと思っています。これから、ますます長生きの時代となり75歳以上人口が増えていくからこそ、そこを支えていってほしいですね。

**(中谷)** 私たちとしては「中小規模の病院として、どのように地域に接していくか」ということになるかと思えます。開業医の先生だけでは行えない部分の診断や治療に関して、事あるごとに3次救急を担うような大病院に紹介するのではなく、同じ地域にある中小規模の病院で初期対応が行えるようにしておくことが大切です。また旭区には大規模病院がなく、医師会として旭区全体で総合病院として対応していこうとしています。この中で旭区にある病院はその要となることが求められると思います。そこで牧病院としては、開業医の先生方と協力し合って地域に根差した小回りの利く病院であるべきと考えています。

当院での診察の結果、さらに専門的な対応が必要であれば大病院に紹介し、大病院を退院された後も開業医の先生だけでは対応しづらい場合には連携を取り合って診療にあたるのが役割と考えています。

**(牧)** それでは開業医の立場から病院機能に求めたいことは何かありますか？

**(守上)** 旭区の病院機能に関して、中核病院が区内にないことがデメリットのように言われますが、必ずしもそうではないと感じることもあります。それは、様々な状況に応じて病院を選択できるからです。病院に求めたいこととなると、ひとまず受け入れて頂いて、そこから電話をしなくても連携しお互いに判断をしていきたいです。

**(牧)** この「ひとまず受け入れる」という点においては、牧病院に地域包括ケア病棟ができたことが地域にとって新しい意味を持つようになるのではないかと思います。

**(中谷)** 確かにこれまではDPC対象病院ということで制度上の制約がある印象を持たれていたと思います。これからはDPC対象の急性期病棟に入院されたとしても、必要に応じて地域包括ケア病棟に転棟した上で適切に在宅生活に戻れるよう、支援を続けることができる体制になっています。

**(守上)** 実際に先日、90代の患者さんについて手術を依頼しました。急性期病院という機能だけであれば、手術後の影響が残っている状態での退院になったかもしれないようなケースでしたが、地域包括ケア病棟でさらにリハビリを続けた上で退院となったので、これは非常に良い医療制度と感じました。

**(牧)** 回復期病院ほどリハビリが充実しているわけではありませんが、リハビリ職以外にも看護や介護による生活リハビリを工夫して行うことで生活する力をしっかりと戻し在宅復帰をしていきたいと思いますという考え方をしているのが地域包括ケア病棟です。

## 旭区の地域包括ケアシステムを考える



**(守上)** 手術により体力が低下した後でも、元気に動ける状態になるまでフォローした上で在宅に帰してもらえるのは我々開業医としては嬉しいことです。

**(牧)** 地域包括ケアシステムの考えが進む中で、牧病院や牧ヘルスケアグループが果たすべき役割、また期待することについてはいかがでしょうか？

**(守上)** 牧ヘルスケアグループは旭区の在宅医療を支える上で重要な役割をになっています。また多職種連携の面でもいろいろお世話になっております。比較的多いのが寝たきり高齢者の誤嚥性肺炎です。このレベルの問題の場合、病院機能や役割の違いを考えても中核病院との連携だけが最適ではないケースも出てきます。このような場合にはぜひ牧病院など旭区内の病院と密に連携を取り、対応していきたいです。

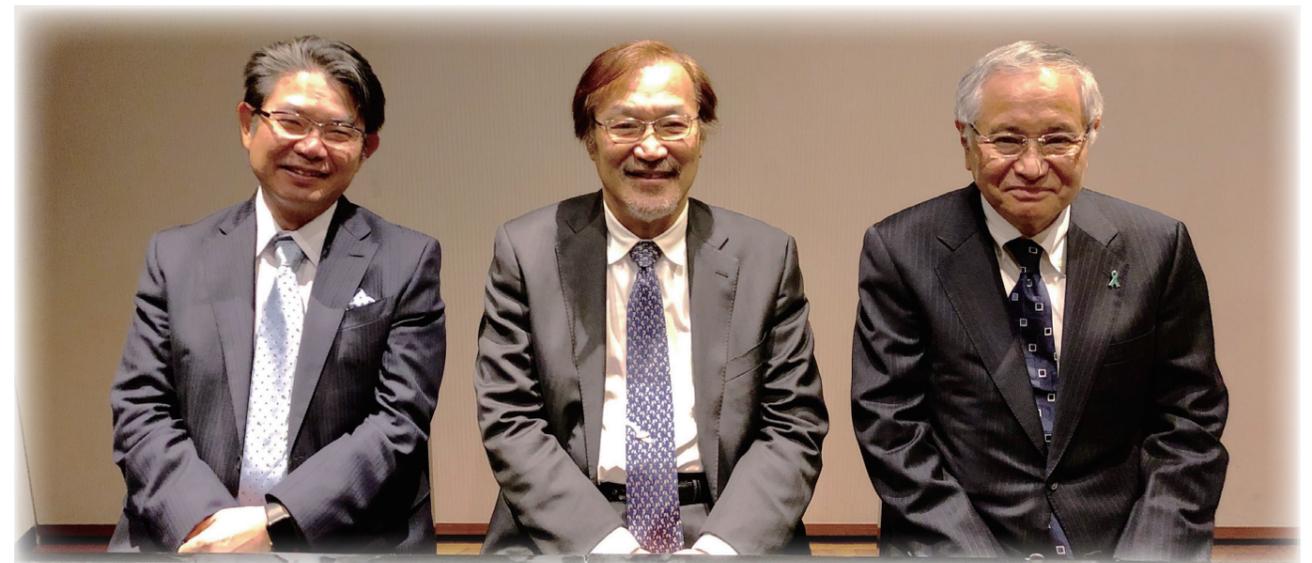
**(中谷)** 牧病院は大きな病院ではありませんが看護師はもちろんのこと、管理栄養士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士らがおりNST(栄養サポートチーム)が活動している点や、医療安全管理者の資格を有する者がいる等、大病院に準ずるシステムが運用されています。私自身、まだNSTなどが珍しい時代から病棟において多職種チームを立ち上げることを実践してきました。この経験と院内のシステムを活かして、地域高齢者の肺炎や心不全に対応していきます。

**(守上)** 繰り返しになりますが、地域包括ケア病棟を作られたのはレスパイト機能を含め、地域にとっては非常に良いことと感じています。この肺炎や心不全患者に関して、これまでの牧病院より気軽に相談できるなど感じています。

**(中谷)** 一点だけ気になっているのが、地域包括ケア病棟を療養型病棟と混同されてはいけない、という点です。あくまで在宅復帰を前提にした病棟で地域に戻ることを目指していることをしっかりと伝え、地域の皆さんにも理解が浸透するようにしていきたいです。

**(牧)** 本当の意味で地域に対して開かれた地域包括ケア病棟を作っていきたいので開業医の先生方にしっかり伝えていかないといけないですね。また我々のグループとしては在宅復帰に力を入れている老人保健施設や訪問看護等の在宅ケアサービスもあるので、それらの事業所と開業医・病院間でも密に連携をとり、地域の充実に貢献していきたいところです。

以前から旭区医師会が提唱してこられた「旭区全体が総合病院」を今まで以上に推し進めて旭区らしい地域包括ケアシステムの構築にそれぞれの立場で邁進していきましょう。



# 「話す」「食べる」を回復させるスペシャリスト、 言語聴覚士！！ ～自慢のチームワークで支えます～

牧リハビリテーション病院 リハビリテーション部 言語聴覚療法科 科長  
梶山 良平 (かじやま りょうへい)

言語聴覚士は、話をしたり聞いたりといった言葉の障害（失語症）、記憶・思考・学習・注意などの障害（高次脳機能障害）、食べ物が飲み込めない、むせるといった障害（嚥下障害）を抱えている人にリハビリテーションを行い、自立や社会復帰を支援する専門職です。対象となる患者さんの症状はそれぞれ異なりますので、色々な検査（言葉・記憶、飲み込みの検査など）で的確に評価するとともに、個々の患者さんの生活背景や個性に応じて訓練プログラムを考えていきます。

当院では、主に脳血管疾患によって上記の障害となった方にリハビリテーションを提供しています。スタッフ同士のチームワークが自慢で、パソコンや音楽、ゲーム的要素を取り入れた訓練や就労を意識した訓練など枠にとらわれない自由な発想を大切にしています。また日々の勉強会や学会への参加を通じて最新の知識・技術の習得に努めています。

粘り強い諦めないリハビリテーションで、地域の皆様の「話す」「食べる」機能の回復を精一杯支援していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



## 11月11日「RUN伴+門真」開催 ～みんなでつなごう！門真の輪！！～

牧リハビリテーション病院 地域連携室 課長 名本 あゆみ (なもと あゆみ)



認知症の方や高齢者が家族や支援者、市民の皆さんと共に歩き、共に走りながらゴールを目指すイベント、「RUN伴+門真」（主催：門真市介護保険サービス事業者連絡会・RUN伴+門真実行委員会）が爽やかな秋晴れの空の下、11月11日に開催されました。牧リハビリテーション病院は、今年も実行委員としてイベント運営に携わりと共に、南コースの中継地点を担い、当日は多くのランナーの方に立ち寄っていただきました。

開催は今年で3回目となり、参加者の中には、RUN伴でゴールまで歩くことを目標に、熱心にリハビリに取り組んできた方もおられ、また車イス参加の方が、途中「歩きたい！」と意欲を持ち、歩き出される姿もみられました。参加のスタイルはさまざまですが、達成感や一体感を楽しむことで、目線が上がり、表情が華やぎ、ゴールの瞬間には皆さんのとても清々しい笑顔が印象的でした。

お揃いのTシャツを着て参加する、そして応援してくれる仲間がいる。

門真の街がオレンジ色に彩られ、みんなで繋いだ輪がより一層輝いた一日でした。

# 牧病院 画像診断センターです！

## ～各科の診療を支える大切な役割を担っています～

牧病院 放射線科 副主任 星 聡彦 (ほし としひこ)

現代の医療において、病気の正確な診断は、患者さんの治療において不可欠であり、画像診断は非常に重要な役割を担っています。

診断画像にはX線写真のほか造影検査、CT、MRI、血管造影、超音波など様々な検査の画像が含まれます。また守備範囲も、頭部から足先まで全身におよび、癌の診断などの精密なものから、身近な検診まで様々です。放射線診断医は画像診断のスペシャリストです。症状や画像所見を総合的に考え、病気の診断とその進行程度を判断した報告書を作成し各科に提示しています。

各科の診療を広い範囲で支えており、これによって病院診療全体の quality control (医療の質) に関わる大変重要な役割を担っています。

また牧病院では、放射線診断医が院内不在の場合も緊急を要する読影にできるだけ対応すべく、牧病院 画像診断センターと放射線診断医を遠隔読影支援ネットワークで結び、画像診断を行う運用をスタートいたしました。これにより救急時の迅速な対応が可能となり、画像診断センターのスタッフが一丸となりさらなる地域貢献を目指していきます。

その他、人間ドックも脳ドックや肺がんドックなどバリエーションに富んだメニューにリニューアルいたしました。

さいごに画像診断センターのスタッフをご紹介します。

有能で個性的なメンバーが揃っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

### 《放射線科スタッフ紹介》

- 大嶋部長 (医師)・・・柔らかな風貌、鋭い眼光、頼れる部長
- 本田技師長・・・・・・放射線技師の司令塔
- 星副主任・・・・・・若手のまとめ役&潤滑油
- 野田技師・・・・・・放射線科の大姉御
- 乾技師・・・・・・この男、即戦力
- 松本技師・・・・・・秘めたる力を持つ男
- 松岡技師・・・・・・紅二点。探求心の塊
- 太田技師・・・・・・期待のルーキー
- 辻岡 (事務)・・・・・・頼れるみんなの情報通
- 南風立 (事務)・・・・・・親切丁寧の接遇プロ



## ～在宅復帰への体制づくり～

所長 井田 公一郎 (いだ こういちろう)

2007年6月に大阪市より指定管理を受け12年になり、その間の2015年には指定管理を更新、在宅強化型施設へ移行しました。さらに2018年7月からは超強化型老人保健施設へと移行しています。

現在、介護老人保健施設として求められているのは『要介護者であって、主としてその心身の機能の維持、回復を図り、居宅における生活を営むための支援を必要とする者に対し、施設サービス計画に基づいて、看護・医学的管理の下における介護及び機能訓練、その他必要な医療ならびに日常生活の世話をを行うことを目的とする施設』すなわち在宅復帰、及び在宅支援施設と定義づけられています。当館としてはその役割を多職種協働で取り組んでいます。

知識と経験豊富な看護師・介護士、住み慣れたご自宅に帰られた時に安心して過ごしていただけるようにリハビリ職員・栄養士からのアドバイス、また、相談員は、ご家族・ご利用者の思いをかたちにする窓口となる役割を担っています。そして、多岐にわたって職員を支援する事務員が一丸となり、2020年指定管理更新に向けて、さらに地域に根ざし、開かれた施設を目指して、邁進する所存でございます。

## ～ご利用者の快適な生活をサポートします～

リハビリテーション科 副主任 橋本 志保 (はしもと しほ)

北部館には、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士それぞれの職種が複数在籍しているため、個別リハビリで身体機能やADLの向上に取り組むだけでなく、安全に食事を摂取していただけるよう食事形態の見直しや座位姿勢の調整など、リハビリ以外の時間も快適に過ごしていただけるよう支援しています。

病院や在宅から当館に入所された方は、3ヵ月間は週6日集中的にリハビリを提供し、3ヵ月を経過されている場合や、他の施設から入所された場合は、週3日リハビリを提供しています。リハビリをする機会が多いため、入所時は不安定だった動作が安定し、入所前よりも介助量が少なくなった状態で在宅復帰する事が可能となっています。

ご自宅で生活される際は、生活する上で不都合な事はないか、何に困っているのかなどを自宅訪問で環境を確認し、手すりの設置位置や福祉用具の提案、ご家族の負担が少ない介助方法の直接指導や提示を行って、ご自宅に戻られてからも安全に過ごしていただけるよう支援しています。



# あけましておめでとうございます。 本年もよろしくお願いいたします。

～私たちのケアプランセンターはこんなところですよ～

## 牧けあぶらん清水

牧けあぶらん清水は平成11年に開設し、大阪市旭区で、地域とともに成長しながら歩んできました。牧病院を拠点に、併設施設内に訪問看護・福祉用具・通所介護で在宅グループを形成し、情報共有しやすい環境にあるのが特徴ですが、地域の医療・福祉機関とも連携し、法人内外を問わずご本人にとって最適なサービスのご提案を心がけています。これからもこの地域に貢献できるよう、皆様方との一つ一つの出会いを大切に、地域とともに歩んでいきたいと思っています。

## 牧けあぶらん守口

牧けあぶらん守口は歴史溢れる文禄堤（京街道）沿いにあり、事務所はあたたかい雰囲気、一人で抱え込まず相談し合える明るいチームです。

メンバーには主任ケアマネジャーが2人おり、どのようなケースにも迅速かつ柔軟に対応させていただいています。

ご利用者やご家族の気持ちに寄り添い、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう多職種とも連携しながら、牧けあぶらん守口を選んで良かったと思っただけのような支援を目指しています。



## おとしよりすこやか ケアプランセンター北部館

おとしよりすこやかケアプランセンター北部館では、今年からスタッフ4名体制となります。今後も旭区のご利用者を中心に、都島区、城東区、守口市方面へも出向き、在宅生活を継続する方々へ支援を続けていきたいと思っております。また、法人内の各部署とも密に連携を図り、ケアマネジャーの事業所として信頼され、地域に貢献できるように頑張っていきます。ただ、事業所が外からも中からも非常に目立たない所にあります…。もちろん北部館内にはありますが、御用の方は事前にご連絡をよろしくお願いいたします！

## 牧けあぶらん関目

牧けあぶらん関目は、平成30年5月に開設したグループ内で一番新しいケアプランセンターです。城東区・旭区・鶴見区を担当地域とし、常勤ケアマネジャー3名で業務を行っております。

介護保険サービスの利用をお考えのご本人やご家族からのご相談に応じ、医療機関や介護事業所などの関係機関の担当者と連携しながら、地域のみなさまがより自分らしくご自宅で過ごしていただけるような窓口となり、共に考え支援する、地域に密着した事業所を目指しています。